



銅鑼

銅鑼

歴史と特色

銅鑼は古代ジャワ、スマトラの南方民族の打楽器にはじまり、中国、朝鮮を経て渡来したものとされている。日本では出船の合図や茶の湯で使われてきたもので、金沢では、茶道の普及に伴って製作されるようになった。

この銅鑼作りに打ち込んだのは人間国宝の故魚住為楽氏で、仏具の中の砂張の鈴の鑄造研究からヒントを得て銅鑼の製作を始め、その抜群の音響は高い評価をうけていた。

材料の砂張は、金属鑄物の中でもっとも難しいといわれている銅と錫の合金で、100対26が音響を良くする絶対条件である。現在この技法は孫にあたる兄弟によって継承されている。

历史和特色

铜锣是经由中国，朝鲜传来日本，用于船只出航的信号和茶道中。鱼住为乐氏从佛具铜铃中得到灵感，开始制造铜锣。其材料是铜和锡的合金，100对26的比例是得到优良音质的绝对条件。因此，铜锣制造是金属铸造品中堪称是技术难度最大的。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)
主な製品名(主要产品名)	銅鑼、茶道具、鈴、花生(铜锣、茶具、铃、插花用器皿)
主な生産者(主要生产者)	魚住安彦(鱼住安彦)、魚住安信(鱼住安信) 〒920-0865 金沢市長町1-7-14(金泽市长町1-7-14) TEL (076) 221-7390



七尾日式蜡烛

歴史と特色

ろうそくは仏教の普及とともに、仏壇に使う灯りとして広まったものと言われている。当初は舶来の貴重品であったが、江戸時代に原料の油をとるハゼの木の栽培が奨励され、提灯の普及に伴って国産の安価なるろうそくが日本各地で作られるようになった。

七尾は天然の良港として昔から栄え、北前船により九州、東北各地にまでろうそくが販売されていた。

明治30年代に西洋ろうそくが入ってきてからは、価格面で格差が大きく、電灯の普及等で次第に作られなくなり、現在は仏事や祭礼用として1社が製造している。蘭草の髓と和紙で作った芯に、植物性油から採った白ろうを手で塗り重ね、太くしていく伝統の手作り技法を伝えている。

历史和特色

蜡烛是随着佛教的普及，作为佛坛使用的灯具而得到推广。在江户时代灯笼里也开始用蜡烛，因此蜡烛的原料——木蜡树的种植受到鼓励支持。因七尾是北前船的停靠港口，七尾的蜡烛曾经销售到九州和东北地区。现在有一家工厂使用兰草的茎髓、日本纸以及植物性蜡制作日式蜡烛，将传统的手工技法传承下去。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	七尾市(七尾市)
主な製品名(主要产品名)	和ろうそく(日式蜡烛)
主な生産者(主要生产者)	高澤ろうそく(高泽蜡烛) 〒926-0806 七尾市一本杉町11(七尾市一本杉町11) TEL (0767) 53-0406

七尾和ろうそく